（様式 2）

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

平成 26 年度～平成 30 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究成果報告書概要

1 学校法人名　学校法人　専修大学　　2 大学名　専修大学

3 研究組織名　専修大学社会知性開発研究センター／古代東ユーラシア研究センター

4 プロジェクト所在地　神奈川県川崎市多摩区東三田２－１－１

5 研究プロジェクト名　古代東ユーラシア世界の人流と倭国・日本

6 研究観点　研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
飯尾　秀幸	文学部	教授

8 プロジェクト参加研究者数　25 名

9 該当審査区分　理工・情報　生物・医歯　人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
飯尾　秀幸	文学部教授	秦漢時代の中国と「東ユーラシア」世界（理論）	プロジェクト・リーダー
高久　健二	文学部教授	朝鮮半島からの渡来人・帰化人とネットワーク	事務局長
荒木　敏夫	名誉教授	古代中国からの来日外国人（文献）	政治制度分析・周縁国来日外国人分析
川上　隆志	文学部教授	中近世における来日外国人と日本文化	近世の外交・分化の分析
田中　正敬	文学部教授	周縁国からの来日外国人と伝来文化	朝鮮半島からの来日外国人と社会
湯浅　治久	文学部教授	遣唐使停廃以後の来日外国人と日本文化	中世の外交分析
土生田　純之	文学部教授	朝鮮半島からの渡来人・帰化人とネットワーク	墓制分析
西坂　靖	文学部教授	遣唐使停廃以後の来日外国人と日本文化	近世の外交分析
松原　朗	文学部教授	唐代の文学と東ユーラシア	文学分析
土屋　昌明	経済学部教授	道教文化と東ユーラシア世界	宗教分析（古代）
志賀　美和子	文学部教授	周縁国からの来日外国人と伝来文化	インド史
中林　隆之	文学部教授	古代の来日外国人と日本文化	日本古代史
高島　裕之	文学部教授	中近世における来日外国人と日本文化	陶磁器からみた東ユーラシア

（様式 2）

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
田中　禎昭	文学部准教授	古代の来日外国人と日本文化	日本古代の王権と国家
鈴木　健郎	商学部准教授	遣唐使停廃以後の来日外国人と日本文化	宗教分析（中世）
厳　基珠	ﾈｯﾄﾜｰｸ情報学部教授	儒教と文革から見た東ユーラシア世界	言語分析
高　兵兵	中国・西北大学国際交流学院・副院長教授	日中文学の比較研究と東ユーラシア世界	文学・国際関係分析
王　維坤	中国・西安外国語大学客員教授	都城制からみた東ユーラシア世界	都城制分析
葛　継勇	中国・鄭州大学外国語学院副教授	古代における隋・唐からの来日外国人研究	古代アジア「移民」史
Pham Hoang Hung	ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学・講師	遣隋使停廃以後の来日外国人と日本文化	朱印船貿易分析
三宅　俊彦	淑徳大学人文学部教授	周縁国からの来日外国人と伝来文化	東南アジア考古学（貨幣史）
皆川　雅樹	産業能率大学准教授	周縁国からの来日外国人と伝来文化	古代東ユーラシア世界と「唐物」
伊集院　葉子	川村学園女子大学兼任講師	古代中国からの来日外国人（文献）	日本古代史
西澤　美穂子	文学部兼任講師	中近世における来日外国人と日本文化	歴史学
福島　大我	文学部兼任講師	秦漢時代の中国「東ユーラシア」世界（理論）	中国古代史

■研究者の追加

変更前の所属・職名	変更（就任）後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
新潟大学人文学部・教授	専修大学文学部・教授	中林　隆之	古代の来日外国人と日本文化

（追加の時期：平成 30 年 4 月 1 日）

11　研究の概要（※　項目全体を10枚以内で作成）

（1）研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

【研究の目的・意義】

本プロジェクトは、「倭国」から「日本」へと変化する古代国家形成期を中心に、前近代日本の外来文化の受容に際して、その移植・仲介者となった渡来者・渡来者集団に焦点をしぼり、その＜流動と土着＞化の歴史的経緯やその意義を明らかにすることを目的とする。研究の対象範囲を「東アジア」から「東ユーラシア」へと拡大し、東ユーラシア世界の有効性を「人流」という視点から検証していく。

従来、この分野は遣隋使・遣唐使に随行した留学生・留学僧の研究や朝鮮半島からの渡来人の研究に収斂されていた。本プロジェクトでは、①中国や朝鮮半島からの渡来者だけでなく、②少人数ゆえに従

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

来は等閑視されてきた「靺鞨人」・「崑崙人」・「胡国人」・「林邑人」などにも対象を広げ、こうした人々の人流の動向を東ユーラシアの多面的な歴史展開にも留意して多角的視野から検討をこころみる。③当然、彼らが日本列島各地に形成したコミュニティも対象とするとともに、④こうした移植・媒介された文化がその後の日本文化・社会においてどのように咀嚼・変容され、日本文化の一部となっていったかを検証する。

本プロジェクトは、今日の多極化する国際社会のなかで、さまざまな文化衝突を克服し、深い自己理解とともに正確な他者理解を実現することに寄与するものである。なお、中国や韓国の研究機関との共同研究・学術交流を積極的におこなっていくことも特徴の一つである。これらを通じて、国内外の研究者間の学術交流を推進するとともに、若手研究者の養成をおこない、古代東ユーラシア研究の拠点形成を目指す。

【研究計画の概要】

本プロジェクトは古代東部ユーラシア圏を中心に、文化・文物・情報の「移植者」・「媒介者」として大きな役割を果たした渡来者・渡来者集団に焦点を当て、彼らが日本列島各地に形成したネットワークを含めて、その歴史的役割を明らかにしようとするものである。5年間の計画では古代を中心に前近代の日本を検討の視野に入れ、さらには、ベトナムや東南アジアなども研究フィールドに取り込み、古代東ユーラシアという地域概念の有効性を検討していく。

具体的な研究テーマとしては、①隋・唐からの来日外国人、②朝鮮半島からの渡来人と彼らが日本列島内に形成したコミュニティの研究、③ベトナムなど周縁国からの来日外国人とその伝来文化、④中世・近世における来日外国人の伝来文化の4つを設定した。各テーマについてそれぞれの共同研究者が担当し、研究・分析を進める。

なお、当初提出した計画案では平成26（2014）年度に①中国からの渡来者がもたらした政治制度や宗教・学問などの文化の調査研究、平成27（2015）年度に②中国や朝鮮半島からの渡来者がもたらした政治制度や宗教などの文化と墓地・墓誌・遺跡などの調査研究、平成28（2016）年度に③前近代における文化・文物の「移植者」・「媒介者」となった「外国人」の動態の総合的検証と列島内に形成したコミュニティの文献・考古学からの検討、平成29（2017）年度に④ベトナムなど周縁国からの来日外国人の人流の動向や来日事由とその伝来文化の調査研究、平成30（2018）年度に⑤渡来者・渡来者集団の＜流動と土着＞化の歴史的経緯や意義の検証を予定していた。このうち②に関しては、渡来者が日本列島にもたらした政治制度や文化に関する調査研究を優先的に進める必要性があることから、中国・西安出土唐代墓誌研究については平成28（2016）年度に実施することとした。また、平成29（2017）年度には④とともに、前年度におこなった③の列島内コミュニティに関して、とくに考古学的視点から検討することとした。

（2）研究組織

本プロジェクトのメンバーは、すでに平成19（2007）年度～23（2011）年度オープン・リサーチ・センター整備事業「古代東アジア世界史と留学生」の際に整備した研究組織を基盤として、これに「東ユーラシア」という地域概念を包括しうるメンバーを新たに加えて、従来の日・中・朝以外の地域を包摂する体制とした。

研究・運営の拠点として、本学の機関である「社会知性開発研究センター」のもとに「古代東ユーラシア研究センター」を新たに組織した。古代東ユーラシア研究センターでは「古代東ユーラシア研究センター委員会」を設け、各研究テーマについての計画を策定し、進行状況を検討している。研究代表は、古代東ユーラシア研究センター代表として委員会での議論を主導し、各研究テーマの進捗状況と今後の

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

計画について必要な調整をするとともに、古代東ユーラシア研究センターの上部機関である社会知性開発研究センターに報告し、承認を得る役割を果たしている。また、各研究テーマのリーダーを中心に「古代東ユーラシア研究センター運営小委員会」ならびに研究代表者の補佐として事務局長を置き、各研究テーマと関連した事務の円滑な進行を期している。

また、研究推進の補助的役割を担うとともに若手研究者を育成するために、PD（ポスト・ドクター）、博士後期課程の大学院生を RA（リサーチ・アシスタント）として採用している。

（3）研究施設・設備等

【主な研究施設】

社会知性開発研究センター　（生田校舎 3 号館 1 階）　面積：　93 ㎡　使用者数：25 名
古代東ユーラシア研究センター（生田校舎 3 号館 1 階）　面積：　29 ㎡　使用者数：　3 名

（4）研究成果の概要　※下記、13及び14に対応する成果には下線及び＊を付すこと。

＜優れた成果が上がった点＞

初年度である平成 26（2014）年度は、古代東ユーラシアの歴史的展開への理解を深めるため、東アジア世界と西北アジア世界などとの関係に関する歴史的な分析、および日本列島への渡来者のもたらした政治制度、宗教・学問などの文化に関する調査研究を実施することとした。これに基づいて、第 1 回シンポジウム「古代東ユーラシア地域と朝鮮・日本」*1 を開催し、古代東ユーラシア世界における人流の動向について多角的な視野から検討した。具体的には、「鮮卑の祖先窟の伝達と突厥の祖先窟の伝承」、「渡来人の東国移配と高麗郡・新羅郡」、「5 世紀後半における東国の渡来人」の 3 報告をおこない、これに基づいて集団の始祖の情報伝達のあり方や、渡来人の認定における文献史学と考古学との違いなどについて討論した。その結果、古代北方ユーラシアにおける人流と情報伝達、および古代日本における渡来人（帰化人）の問題について、文献史学と考古学の視点からアプローチし、東ユーラシアにおける人流の実態を明らかにすることができた。*2 また、本研究の主たる研究対象の一つである「朝鮮半島からの渡来人と彼らが日本列島内に形成したコミュニティの研究」を推進するため、第 1 回研究会「朝鮮半島からの渡来人と日本列島内に形成された渡来人コミュニティの研究」*3 では、朝鮮半島三国時代百済の古墳・王宮跡・仏教遺跡に関する近年の調査成果について検討した。これらの検討結果をもとに、渡来人の出身地の一つである百済地域の現地資料調査を実施した。具体的には、百済の仏教遺跡である瑞山・泰安磨崖三尊仏や弥勒寺跡、王宮跡である王宮里遺跡、墳墓である益山双陵・笠店里古墳群などを踏査するとともに、百済関連資料を保管する国立中央博物館、国立全州博物館、忠北大学校博物館などで資料調査を実施した。資料調査の結果、中国大陸・朝鮮半島・日本列島における相互交流関係を明らかにするための基礎資料を入手することができた。*4 さらに、もう一つの研究テーマである「ベトナムなど周縁国からの来日外国人とその伝来文化」を進めるための準備として、第 2 回研究会「ヴェトナム史研究の現状」*5 では、日本におけるベトナム史研究の動向について検討した。

平成 27（2015）年度は前年度の成果を受けて、古代東ユーラシア地域の人流に関する理解を深めるとともに、中国大陸や朝鮮半島からの渡来人が日本列島にもたらした政治制度や文化に関する調査研究をさらに進めることとした。これに基づいて、第 1 回（通算第 2 回）シンポジウム「古代東ユーラシアにおける『人流』」*6 を開催し、中央アジアから日本列島における人とモノの移動について検討した。具体的には、「ユーラシアの民族移動と唐の成立－近年のソグド関係新史料を踏まえて－」、「日本列島への馬の導入と馬匹生産の展開－東日本を中心に－」、「古代東ユーラシアの馬文化－モンゴル・中国・韓国を中心に－」の 3 本の報告と討論をおこない、中央アジアから東アジアにおける民族移動とモンゴル・中国・朝鮮・日本における馬文化の交流関係について把握することができた。*7 さらにシンポジウムに関

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

連して、第 1 回研究会「古代東ユーラシアにおける馬具」[*8] では、中国および内モンゴルにおける最新出土馬具資料について検討した。

第 2 回（通算第 3 回）シンポジウム「古代東ユーラシアにおける中心と周縁」[*9] では、東アジアにおける中華と周縁、および日本列島における南北交流について検討した。具体的には、「東アジア古代における『中華』と『周縁』についての試論」、「国際交易と列島の北・南」の 2 本の報告と討論をおこない、中国や日本の中心と周縁における政治・経済・思想・文化的な相互関係を明らかにすることができた。

前年度に引き続いて「朝鮮半島からの渡来人と彼らが日本列島内に形成したコミュニティの研究」を推進するため、第 2 回研究会「岡山渡来人関連遺跡研究の動向」[*10] では、渡来系文物が多く出土し、渡来人集団の居住地の一つと考えられる岡山県出土の渡来系資料の概要、および地域史研究の動向について検討した。これらの検討結果をもとに、岡山県および兵庫県の資料調査を実施した。具体的には、造山古墳、鬼ノ城跡、熊山遺跡、秦廃寺、備中国足守庄荘園関連遺跡、播磨国鵤荘関連遺跡宮山古墳などを踏査し、資料収集をおこなった。その結果、吉備・播磨地域における渡来人集団の実態および渡来系文化の流入過程を理解することができた。[*11] これらの資料調査を実施するなかで催した、第 3 回研究会「吉備・播磨の渡来人（1）」および第 4 回研究会「吉備・播磨の渡来人（2）」[*12] では、吉備・播磨地域における渡来系文化に関する最新の研究成果を把握することができた。

平成 28（2016）年度は、前近代における文化・文物の「移植者」・「媒介者」となった「外国人」の動態の総合的検証と列島内に形成したコミュニティに関する文献・考古資料を検討することとした。これに基づいて、第 1 回（通算第 4 回）シンポジウム「古代東ユーラシアにおける『人流』と地域社会」[*13] を開催し、東ユーラシアにおける人の移動と移動先での活動について検討した。具体的には、「新出墓誌とその重要性－大唐西市博物館所蔵墓誌を中心に－」、「唐における高句麗・新羅・百済人の活動とそれに関する史料」、「新出墓誌から見る入唐西域人の活動」、「古代東アジアにおける政治的流動性と人流」の 4 本の報告と討論をおこない、本プロジェクトの重要課題である中国・西安出土の唐代墓誌を検討し、古代東ユーラシアにおける人の移動と活動内容を具体的に明らかにすることができた。第 1 回研究会「西安西市出土墓誌を巡って」[*14] では、中国における最新の墓誌資料を把握することができた。

第 2 回（通算第 5 回）シンポジウム「東ユーラシアにおける移動と定着」[*15] では、日本列島における人の移動と交流・交易について検討した。具体的には「日本古代のエミシ移配政策とその展開」、「中世国際貿易都市『博多』の調査成果」、「中世初期日本国周縁部における交流の諸相」の 3 本の報告と討論をおこない、日本列島の南北における古代～中世の人の移動とアジアとの交流・交易関係を明らかにすることができた。また、第三者評価委員会実施にあわせて開催した第 2 回研究会「古代東ユーラシア研究センター研究プロジェクトの意義と展望」[*16] では、日本古代史研究と東ユーラシア史との関連性、東ユーラシアにおける諸集団の動向、日本列島における渡来人研究などについて検討した。

平成29（2017）年度は、前近代における日本列島と朝鮮半島との交流関係、および日本とベトナムとの交流関係を文献史・考古学的に把握することを目的として研究を進めることとした。第1回（通算第6回）シンポジウム「古墳時代の渡来人―西と東―」[*17]では、「日韓交流と渡来人―古墳時代前期以前―」、「古墳時代の渡来人―西日本―」、「古墳時代の渡来人―東日本―」の3本の報告と討論をおこない、朝鮮半島からの渡来人集団を把握するための考古学的方法論、弥生時代～古墳時代の北部九州、西日本、東日本における対外交流および渡来人集団の実態などを明らかにすることができた。[*18]

第 2 回（通算第 7 回）シンポジウム「ベトナム・日本の交流よりみた前近代東ユーラシア」[*19] では、「ベトナムにおける日本前近代史研究」、「ベトナムにおいて発掘された 17 世紀の肥前焼き物」、「象を通じてみた越日交流」の 3 本の報告と討論をおこない、ベトナムにおける日本研究の現状を把握するとともに、ベトナム出土の肥前陶磁や象貿易について考古学および文献史学から検討し、近世における日越交流の実態を明らかにすることができた。また、シンポジウムに関連して、第 1 回研究会「ベトナムにおける古代史及び日本史研究の概要」[*20] では、ベトナムにおける日本研究の現状などについて意見交換をした。

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

前年度に引き続いて「朝鮮半島からの渡来人と彼らが日本列島内に形成したコミュニティの研究」を推進するため、群馬県金井遺跡群に関する資料調査を実施し、上野地域における渡来系文化の受容および渡来人コミュニティの形成過程に関する考古学的な基礎資料を得ることができた。[*21] また、日本とベトナムとの交流関係を解明するために、ベトナムでの資料調査を実施し、前近代における日越交流、海のシルクロードを通じての文化交流、中国大陸との人流・交流に関する文献史料・考古資料を把握することができた。[*22]

本プロジェクトの最終年度である平成 30（2018）年度は、渡来者・渡来者集団の＜流動と土着＞化の歴史的経緯や意義について総合的に検証することを目的として研究を進めることとした。これに基づいて、第 1 回（通算第 8 回）シンポジウム「古代東ユーラシアの国際関係と人流」[*23] を開催し、「内乱と移動の世紀－4～5 世紀中国における漢族の移動と中央アジアー」、「ソグド人の交易活動と香木の流通－法隆寺伝来の香木を手がかりとしてー」、「古代東アジアの文物交流－馬韓と百済を中心にー」の 3 本の報告と討論をおこない、4～5 世紀における漢族の西方への移住の実態、ソグド人による陸上ルートや海上ルートを通じた東西の交易活動、百済と中国王朝・東ユーラシア北方地域・日本列島との交流とその意義について検討した。その結果、古代東ユーラシア、とくに中央アジア、中原地域、朝鮮半島における東西の人の動きと交易活動の実態について歴史学・考古学の視点から明らかにすることができた。また、第 1 回研究会「日韓における韓国考古学の現状と課題」[*24] では、近年における馬韓・百済考古学研究の成果と課題等について議論した。

第 2 回（通算第 9 回）シンポジウム「東ユーラシア地域論の現在－交流・交易からみた北と南－」[*25] では、「後漢・三国政権と交州地域社会」、「大越国陳朝期の交易と海域アジア」、「9～11・12 世紀における北方世界の交流」、「平家政権の日中間交渉の実態について」の 4 本の報告と討論をおこない、ベトナムを中心とする古代交州地域社会の形成過程と特徴、13～14 世紀におけるベトナム大越国陳朝期の交易活動の実態、9～12 世紀における古代アイヌによる北方地域の交易活動、12 世紀の平家政権による宋との交易活動とそれにともなう貿易港の整備の意義について検討した。その結果、3～14 世紀という長期間にわたる東ユーラシア地域、とくに日本列島とその南北世界との交易活動について文献史料・考古資料をもとに明らかにすることができた。また、第三者評価委員会実施にあわせて、第 2 回研究会「日本古代史・中国古代史・考古学からみた東ユーラシア地域論の現在」[*26] を開催し、研究プロジェクトの総括と今後の課題等について議論した。

以上、5年間にわたるシンポジウム・研究会・資料調査を通じて、研究対象地域は日本列島、朝鮮半島、中国大陸、東南アジア、中央アジア、北方ユーラシアに広がり、対象時期も3世紀から17世紀という長期間に及んだ。そのなかでも特筆される研究成果としては、まず中国中原地域と中央アジア・北方ユーラシア・東南アジア・朝鮮半島・日本列島との人流・物流について歴史学・考古学から多角的にアプローチし、その相互作用を明らかにした点があげられる。これらの相互作用の結果、ヒト・モノ・情報が双方向的に移動し、東ユーラシア地域に多様な文化圏が形成されたという結論に達した。

次に日本列島における南北の交流・交易の実態を明らかにした点があげられる。北方のアイヌを媒介とする列島やオホーツク地域との交流、東北地域と渤海との交流、南九州地域と南西諸島との交流、博多と中国との交易などについて、歴史学・考古学的に検討した結果、日本列島の南北において多様な交流・交易がおこなわれ、独自な文化をもつ南北世界を形成し、これらの地域との相互作用によって日本列島全体が変容していくプロセスを描き出すことができた。

また、日本列島における渡来人の実態を明らかにした点も大きな研究成果である。弥生時代以来、日本列島に渡来し、定着した人々の実態について、現地調査も含めて、検討することができた。その結果、これら渡来人がもたらした文化が、その後の日本列島の文化形成に大きな影響を与えたことを文献史料・考古資料から明らかにすることができた。とくに日本列島の各地に居住していた渡来人集団を具体的に把握する方法論を開発できた点は特筆される。

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

本プロジェクトにおいては、歴史叙述における東ユーラシアという地域概念を導入することの有効性を検討してきた。これまでに「人流」という視点から研究を推進するなかで、この有効性を、中心と周縁という重層的、かつ相対的で主体的な関係から捉えるという論点を見出し、これを研究方法の柱とすることが確認されたことは重要な成果の一つとなっている。人が移動し、村落および都市の周縁に定着し、既成の社会（中心）との関係を取り結ぶ。そしてその周縁の、中心との関係はあるいは従属的であり、あるいは支配的であるという経過をたどりながら、より広い地域との間で、すなわち中国大陸、朝鮮半島、日本列島などの内部で、いくつもの新たな中心・周縁関係を構築する。それらの関係の変化が、「人流」の展開する東ユーラシアを範囲として複雑に連動する歴史的諸事象を生起させる。この論点の具体化によって、内陸アジア、東アジア世界史における新たな歴史叙述をおこなうことが可能となった。

もう一つの大きな成果として、データベースの作成・公開があげられる。本プロジェクトの前身である「古代東アジア世界史と留学生」の研究プロジェクトからの継続事業である「古代東アジア世界史年表」データベース*27については、継続的な校訂・補正作業をおこない、より完成度の高いものにして Web 上で公開している。また、本プロジェクトから新たに「古代東ユーラシア来日外国人データベース」*28と「渡来系遺跡・遺物データベースー東日本編ー」*29の作成を開始し、前者については「新羅人」「高句麗人」「波斯人」「崑崙人」の項目について関連史料を Web 上で公開しており、後者については最も資料数が多い群馬県の項目が完成した。

一方で、研究成果を研究者だけでなく、市民にも広く公開するという目的で、シンポジウムはいずれも一般公開の形式で開催してきた。これまで開催した9回のシンポジウムには延べ1,793名もの参加者があった。また、研究成果を掲載した『古代東ユーラシア研究センター年報』*30もシンポジウムの参加者に無料配布している。これらの一般に向けた取り組みは、大学の社会貢献という観点からも大きな成果と捉える事ができる。

本プロジェクトでは、5年間でRA6名、PD2名を採用してきた。このうちRA1名が平成29（2017）年4月に博物館の非常勤学芸員に採用され、もう1名が平成30（2018）年4月に石川県立美術館の学芸員として採用された。また、平成29（2017）年9月よりRA1名が韓国の大学の博士課程に留学している。平成29（2017）年6月にPD1名が歴史学会の全国組織である歴史学研究会委員会委員に就任している。平成30（2018）年度にはPD1名が本学大学院文学研究科に博士論文を提出し、学位を取得した。本プロジェクトの目的の一つが若手研究者の養成にあるので、これも大きな成果であるといえる。

＜課題となった点＞

本プロジェクトのスタート時点では、はたして東ユーラシアという地域概念に有効性があるのか、主たる研究対象としてあげた4テーマをどのように進めていくのか、その方向性にあいまいな部分もあった。しかし、5年間にわたって開催したシンポジウムや研究会を通して、東ユーラシア各地に認められる中心と周縁の重層的構造を「人流」という視点から文献史学・考古学的に検討するという方法論を見出すに至った。その結果、東ユーラシア地域における人の移動、および前近代日本における渡来者集団の歴史的意義を明らかにするなど、当初の目標をほぼ達成することができた。一方で、東ユーラシアの視点からあらためて東アジア地域を再検討する必要があることを認識した。

また、いくつかの課題も残っている。まず、「古代東アジア世界史年表」データベース*27については、現在も校訂・補正作業を続けている。また、「古代東ユーラシア来日外国人データベース」*28と「渡来系遺跡・遺物データベースー東日本編ー」*29についても今後も継続的なデータの追加が必要である。5 年間の事業の成果の精度を高め、より広く社会に還元・貢献するためにも継続的作業が必要である。

＜自己評価の実施結果と対応状況＞

本センターの上部機関である社会知性開発研究センターには「自己点検・評価実施委員会」を設置し、

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

定期的におこなう自己点検・自己評価の体制を構築している。

なお、平成 26（2014）年度には公益財団法人大学基準協会の大学評価（認証評価）を受け、その結果、上記体制ならびに研究成果や取り組み内容を広く一般に報告するなどの活発な活動について高い評価を得た。

＜外部（第三者）評価の実施結果と対応状況＞

本プロジェクトの研究成果の達成状況・達成度を外部の視点から客観的に評価するため，学外研究者 3 名からなる第三者評価委員会を設置した。

平成 29（2017）年 1 月に開催した同委員会[*31]（亀田修一／岡山理科大学教授、鈴木靖民／國學院大學名誉教授・横浜市歴史博物館館長、窪添慶文／お茶の水女子大学名誉教授）では、いずれの委員からも三段階（A～C）中で最高であるA評価を頂いたほか、「シンポジウムは、多くの市民に公開することにより大学として社会貢献を果たし、近年注視される日本の公共考古学、ひいては公共歴史学の一翼を担うことになっている」（鈴木委員）、「研究成果が年報などの形で毎年きちんと公開されていること、特にホームページで詳細きわまりないデータベースが公開されていること」（窪添委員）、「『人流』『流動と土着』をより具体的に提示していただくとともに、総合的にまとめ提示していただければ興味深い成果があがるものと期待している。」（亀田委員）、等の所見をいただいた。

平成 31（2019）年 2 月に開催した同委員会[*32]（亀田修一／岡山理科大学教授、鈴木靖民／國學院大學名誉教授・横浜市歴史博物館館長、金子修一／國學院大學教授）においても、3 名の委員からA評価を頂いた。各委員から提出された総合所見においても、「「中心と周縁」というテーマは大変興味深い。」（亀田委員）、「本プロジェクトは、2007 年度からおこなわれた「古代東アジア史と留学生」研究プロジェクトの後継事業として、理解できるものであり、研究活動計画やシンポジウム・研究会については、前のプロジェクトの経験を生かしてより練られたものとなっており、全体的な成果は高く評価することができる。」（金子委員）、「日本に重点を置きながらも、中国（中原）を中心（中央）とし、東北アジア、東南アジア、中央アジアに広がりをもつ人、モノ、文化、情報の移動、交流を第一線の専門家を招き、最新の調査や新出資料をもとに成果を披瀝し合って、国を超えた研究の交流、推進をおこなった。この日本で数少ない世界レベルの最先端の研究の場を提供したことは高く評価でき、新たな東ユーラシア世界の歴史、文化の追及がさらに期待される。」（鈴木委員）、等の高い評価をいただいた。

また、研究期間終了後の展望について、各委員からは「大地域、中地域、小地域内での「中心と周縁」、その時間的変化、重層性など、今後の展開がとても楽しみである。」（亀田委員）、「今後については日本・朝鮮・北アジア・中国等のそれぞれの考古学の成果を有機的に繋がりあるものとして構成し得るかどうか検討すること、また（中略）律令のように、個別研究と並行して共同で講読していくことのできる史料を見出し、長期的に研究を続けていくことができるかどうかが大きな課題となるであろう。今後に期待したい。」（金子委員）、「この事業により培われた専修大学としての研究のネットワークをより太く固いものとし、ほかの大学や研究機関との連携を含めて、国内はもとより、国際的な研究事業の集約可能なセンター、ハブとなるべく、活動の継続、発展をぜひ望みたい。」（鈴木委員）、等の意見をいただいた。これらの意見をふまえて、次の述べるように、本プロジェクトが終了したのちも、「中心と周縁」という視点を生かしつつ、新たな研究を展開していくこととした。

＜研究期間終了後の展望＞

5 年間の研究を通して、東ユーラシアの視点から東アジア世界を解明する必要があることをあらためて認識した。これまでの「古代東アジア世界史と留学生」プロジェクトおよび「古代東ユーラシア世界の人流と倭国・日本」プロジェクトでの成果をベースに、あらためて東アジア各地域を中心と周縁という視点で照射することによって、東ユーラシア全域と東アジア各地域との関係性について再検討してい

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

く。これらの成果は歴史学や考古学にとどまらず、宗教学、言語学、民族学など多方面の分野で活用できるものである。さらに、現代の東アジア世界を理解するうえでも重要な意義を有するものと考えている。

また、「古代東アジア世界史年表」データベース[*27]、「古代東ユーラシア来日外国人データベース」[*28]、「渡来系遺跡・遺物データベースー東日本編ー」[*29]についても、校訂・補正作業を続け、データの追加等をおこなっていく。また、新たな研究として「中国出土墓誌データベース」[*33]の作成も予定している。

＜研究成果の副次的効果＞

本プロジェクトの副次的効果としては、まず、PD・RA として採用した若手研究者の研究の進展があげられる。PD・RA は本プロジェクトの補助的役割を担うだけでなく、各自の研究テーマに沿った調査研究もおこなっており、多くの研究業績を発表している。また、シンポジウムなどを通じて、国内外の研究者と交流するなかで、世界史的な視野から自己の研究を相対化する機会を得ている点も特筆される。

また、前述したように、これまで本プロジェクトで開催したシンポジウムには多くの参加者があり、これらのシンポジウムを通じて、本プロジェクトの研究成果を市民に広く公開できただけでなく、本学の研究ブランドを広報できた点は重要な副次的効果といえる。

12　キーワード（当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。）

（1）東ユーラシア　（2）人流　（3）渡来人
（4）中心と周縁　（5）中国　（6）朝鮮
（7）ベトナム　（8）交易

13　研究発表の状況（研究論文等公表状況。印刷中も含む。）

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには＊を付すこと。

＜雑誌論文＞

No.	著者名	論文標題	雑誌名（巻）	発行年	頁	査読
1	飯尾秀幸・佐藤昌平・佐々木満実・椎名一雄・膳智之・多田麻希子・奈良竜一・福島大我・山元貴尚	『嶽麓書院藏秦簡（参）』訳注（一）	専修史学第 59 号	2015 年	pp. 73-132	○
2	飯尾秀幸	戦後日本における中国古代国家史研究をめぐって	専修史学第 60 号	2016 年	pp. 39-56	○
3	飯尾秀幸	古代史研究における東ユーラシア地域論をめぐる試案	専修大学社会知性開発研究センター古代東ユーラシア研究センター年報第 2 号	2016 年	pp. 85-90	

（様式 2）

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

	No.	著者名	論文標題	雑誌名（巻）	発行年	頁	査読
	4	飯尾秀幸・佐藤昌平・佐々木満実・椎名一雄・膳智之・多田麻希子・奈良竜一・福島大我・山元貴尚	『嶽麓書院藏秦簡(参)』訳注(二)	専修史学第 61 号	2016 年	pp. 1-26	○
	5	専修大学『二年律令』研究会（飯尾秀幸・佐々木満実・佐藤昌平・椎名一雄・膳智之・荘卓燐・多田麻希子・奈良竜一・福島大我・山元貴久）共訳注	『嶽麓書院藏秦簡(参)』訳注(三)―第一類　案例〇三　「猩・敞知盗分贓案」	専修史学第 63 号	2017 年	pp. 26-73	○
	6	高久健二	新たに報告された楽浪塼室墓に関する考察	東アジア古文化論攷	2014 年	pp. 225-243	
	7	高久健二	朝鮮半島南部地域における板状鉄斧－嶺南地域を中心に－	佐久考古通信 №113	2014 年	pp. 10-12	
	8	高久健二	朝鮮三国時代の王墓	アジアの王墓	2014 年	pp. 61-81	
*4 *30	9	高久健二	平成 26 年度韓国・三国時代百済関係資料調査報告	専修大学社会知性開発研究センター古代東ユーラシア研究センター年報第 1 号	2015 年	pp. 85-110	
	10	高久健二	新たに報告された楽浪塼室墓と横穴式石室墓に関する考察	専修考古学第 15 号	2016 年	pp. 139-164	
	11	高久健二	勒島遺跡の外来系文物からみた対外交流	泗川勒島遺跡発掘 30 周年記念特別展 国際貿易港勒島と原の辻	2016 年	pp. 212-235	
	12	高久健二	竈	季刊 考古学 第 137 号	2016 年	pp. 53-57	
	13	高久健二	東国の古墳と渡来系要素－北武蔵・埼玉古墳群を中心に－	「韓日交涉의考古學-三國・古墳時代 - 」研究會 第 4 回共同研究會 韓日의古墳	2016 年	pp. 185-204	

（様式 2）

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

	No.	著者名	論文標題	雑誌名（巻）	発行年	頁	査読
	14	高久健二・佐藤康二	伝・将軍山古墳出土の朝鮮三国時代加耶系陶質土器について－明治大学博物館所蔵資料の紹介－	埼玉県立史跡の博物館紀要 第 10 号	2017 年	pp. 67-78	
	15	高久健二	川崎市蟹ヶ谷古墳群の発掘調査と神庭遺跡	専修大学人文科学年報第 47 号	2017 年	pp. 1-20	
	16	高久健二	新羅積石木槨墓の埋葬プロセス－皇南大塚を中心に－	国立歴史民俗博物館研究報告第 211 集	2018 年	pp. 167-209	○
	17	荒木敏夫	大伴氏の「没落」－氏族研究の陥穽－	歴史地理教育 835 号	2015 年	pp. 89-92	
	18	荒木敏夫	書評　勝浦令子『孝謙天皇・称徳天皇』	歴史評論 796 号	2016 年	pp. 64-65	
	19	荒木敏夫	中世の女帝像－『我が身にたどる姫君』の女帝の比較分析	専修人文論集 99 号	2016 年	pp. 1-15	
	20	荒木敏夫	平安京と平安京の羅城門－歴史の記録と記憶－	専修大学人文科学研究所月報第 287 号	2017 年	pp. 27-35	
	21	川上隆志	出版活動と部落差別～編集者の経験から	明日を拓く第 104 号	2014 年	pp. 12-27	
	22	川上隆志	人類史的視野から現代を考え続けた偉大なるフィールドワーカー	部落解放 718 号	2015 年	pp. 22-31	
	23	川上隆志	海のアジアと張保皐	はぬるはうす 2016 年第 1 巻 第 49 号	2016 年	pp. 27-31	
	24	川上隆志	福建の春	まほら第 88 号	2016 年	pp. 38－41	
	25	川上隆志	カナダーダイバーシティとファーストネーションズの国	まほら第 97 号	2018 年	pp. 38-43	
	26	土生田純之	大神神社の鳥居と赤玉	大美和 127 号	2014 年	pp. 10-16	
*2 *30	27	土生田純之	東国の渡来人－5 世紀後半を中心として－	専修大学社会知性開発研究センター古代東ユーラシア研究センター年報第 1 号	2015 年	pp. 37-49	
	28	土生田純之	終末期古墳としての壬生車塚古墳	壬生町合併 60 周年記念シンポジウム みぶ車塚古墳の時代	2015 年	pp. 1-15	
	29	土生田純之	川崎市蟹ヶ谷古墳群の発掘調査	専修大学人文科学年報第 46 号	2016 年	pp. 1-20	

（様式 2）

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

	No.	著者名	論文標題	雑誌名（巻）	発行年	頁	査読
	30	土生田純之	日本における古墳構築技術の土木考古学的研究	専修考古学第 15 号	2016 年	pp. 105-115	
	31	土生田純之	東日本の渡来人	季刊考古学 137 号	2016 年	pp. 71-75	
	32	土生田純之	積石塚	季刊考古学 137 号	2016 年	pp. 63-65	
	33	土生田純之	中道古墳群の盛衰 ―中期における大型古墳の欠如	古代東国と畿内王権 甲斐中道古墳群の検討から　資料集	2014 年	pp. 55-62	
	34	土生田純之	「下野型古墳の歴史的意義」	専修大学人文論集第 100 号	2017 年	pp. 197-224	
	35	土生田純之	「古墳研究の今」	文化財信濃第 44 巻第 1 号	2017 年	pp. 12-22	
*18 *30	36	土生田純之	「古墳時代の渡来人―東日本―」	専修大学社会知性開発研究センター古代東ユーラシア研究センター年報第 4 号	2018 年	pp. 63-87	
	37	湯浅治久	書評　村石正行『中世の契約社会と文書』	歴史学研究 936 号	2015 年	pp. 78-82	
	38	湯浅治久	円覚寺領上総国畔蒜庄亀山郷と地域社会	鎌倉 120 号	2016 年	pp. 1-13	
	39	湯浅治久	中近世移行期における社会編成と諸階層	日本史研究 644 号	2016 年	pp. 3-23	
	40	湯浅治久	土佐山内氏家臣大庭氏の中世系譜認識と「軌跡」	専修大学人文論集 100 号	2017 年	pp29-52	
	41	湯浅治久	武州白旗一揆の展開と在地社会の変動	多摩のあゆみ 172 号	2018 年	pp54-65	
	42	湯浅治久	2018 年度歴研大会近藤報告批判	歴史学研究 978 号	2018 年	pp44-45	
	43	田中正敬	近年の関東大震災関連叙述の問題点について－「緊急事態条項」論・教科書を中心に－	季論 21 第 35 号	2017 年	pp. 154-166	
	44	田中正敬	일본 내 관동대지진 때의 학살사건 진상 규명 운동의 현황（日本内関東大震災時の虐殺事件深層球面運動の現況）	韓日民族問題研究第 33 号	2017 年	pp. 309-322	

（様式 2）

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

No.	著者名	論文標題	雑誌名（巻）	発行年	頁	査読
45	田中正敬	関東大震災時の朝鮮人および中国人虐殺追悼・調査の取り組み	日本における外国人・民族的マイノリティ人権白書・2018年	2018 年	pp. 74	
46	田中正敬	小池都知事の追悼辞取りやめとは何かー関東大震災朝鮮人虐殺をめぐってー	歴史学研究 968 号	2018 年	pp. 45-51、66	
47	田中正敬	関東大震災朝鮮人虐殺の否定･隠蔽についてー小池都知事の追悼辞送付取りやめと関連してー	日本の科学者 第 53 号	2018 年	pp. 31-37	○
48	松原朗	書評　金文京『李白―漂泊の詩人その夢と現実―』	和漢比較文学 52 号	2014 年	pp. 72-87	
49	松原朗	杜甫の詩に見える「石」―詩的認識における「型」の解体―	植木久行教授退休記念中国詩文論叢 33 集	2014 年	pp. 147-171	○
50	松原朗	杜甫とその時代	中国詩文論叢 34 集	2015 年	pp. 41-71	○
51	松原朗	杜甫の貴族意識	中国詩文論叢 36 集	2017 年	pp. 19-41	○
52	松原朗	杜甫を育くんだ世界 ―継祖母盧氏の氏族観を手掛に―	杜甫研究年報創刊号	2018 年	pp. 2-19	○
53	土屋昌明	霊宝経十二部「本文」の文献的問題から道教の文字説へ	洞天福地研究 第 5 号	2014 年	pp. 51-80	
54	土屋昌明	玄宗による創業神話の反復と道教の新羅への伝播	専修大学社会知性開発研究センター古代東ユーラシア研究センター年報第 1 号	2015 年	pp. 69-84	
55	土屋昌明	黄泉国と道教の洞天思想	古事記年報 58 号	2016 年	pp. 1-20	
56	土屋昌明	李白と司馬承禎の洞天思想	洞天福地研究 第 6 号	2016 年	pp. 76-87	
57	土屋昌明	紫柏山と道教	洞天福地研究 第 6 号	2016 年	pp. 88-94	
58	土屋昌明	唐代洞天巡礼行程初探	洞天福地研究 第 7 号	2017 年	pp. 51-67	
59	土屋昌明	司馬承禎の洞天思想と坐忘論	洞天福地研究 第 7 号	2017 年	pp. 82-95	

（様式 2）

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

No.	著者名	論文標題	雑誌名（巻）	発行年	頁	査読
60	魏斌（土屋昌明訳）	句容茅山の興起と南朝社会	洞天福地研究 第 8 号	2018 年	pp. 17-47	
61	土屋昌明	唐長安の東明観について	洞天福地研究 第 8 号	2018 年	pp. 48-58	
62	志賀美和子	書評“Gyanendra Pandey, A History of Prejudice: Race, Caste, and Difference in India and the United States”	アジア経済 第 5 巻第 4 号	2014 年	pp. 117-121	
63	志賀美和子	地域主義政党は中央政府への参加を志向するか―ドラヴィダ主義政党の場合	アジア研究 第 62 巻第 4 号	2016 年	pp. 39-54	○
64	志賀美和子	タミル・ナードゥ公文書館―インドの地方公文書館の歴史と現状―	歴史学研究 974 号	2018 年	pp. 42-46	
65	髙島裕之	江戸遺跡における明末以前の中国陶瓷-大型製品の受容に関する予察-	貿易陶磁研究 No. 34	2014 年	pp. 133-143	
66	髙島裕之	日本磁器産業の成立と有田天狗谷古窯の具体像	駒澤考古 40 号	2015 年	pp. 219-236	
67	中島徹也・髙島裕之	久米島宇江城・具志川城跡出土貿易陶瓷の諸問題	貿易陶磁研究 No. 35	2015 年	pp. 91-105	
68	田中禎昭	書評 坂江渉著『日本古代国家の農民規範と地域社会』	歴史評論 810 号	2017 年	pp. 96-100	
69	田中禎昭	古代地域社会論の方法と課題	歴史科学 230 号	2017 年	pp. 35－38	
70	田中禎昭	書評 義江明子『日本古代女帝論』	ジェンダー史学 14 号	2018 年	pp. 168-171	
71	田中禎昭	籍帳に見る古代の子ども―半布里戸籍における片籍の分析―	綜合女性史研究 36 号	印刷中	未定	○
72	三宅俊彦・清水菜穂・櫻木晋一・森中紘一	ラオス・シェンクワン県における出土銭貨の調査	東南アジア考古学 35 号	2015 年	pp. 69-75	

（様式 2）

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

No.	著者名	論文標題	雑誌名（巻）	発行年	頁	査読
73	Nakamura Kazuyuki, Miyake Toshihiko, Maxim Valerievich Gorshkov, Kobayashi Junya, Murakushi Madoka	Chemical analysis of the Chinese coin Yongle Tongbao owned by Khabarovsk Regional Museum named after N.I. Grodekov	Research Reports of National Institute of Technology, Hakodate College, No.52	2018 年	pp.39-47	
74	三宅俊彦	10-15 世紀東ユーラシアにおける銭貨流通	東洋史研究 第 77 巻第 2 号	2018 年	pp.325-364 (pp.1-40)	○
75	皆川雅樹	アクティブラーニング型授業と歴史的思考力の育成―高大連携・接続での汎用的な歴史教育の可能性を考える―	専修大学附属高等学校　紀要 34 号	2015 年	pp.11-37	
76	皆川雅樹	遣唐使派遣と「国風文化」―歴史的思考力の育成とアクティブラーニング型授業を意識した授業実践―	歴史地理教育 833 号	2015 年	pp.20-27	
77	皆川雅樹	高等学校におけるファシリテーション・チームビルディングを学ぶ授業―高大連携、そして社会・未来への架け橋としての場づくり―	専修大学附属高等学校　紀要 35 号	2016 年	pp.47-61	
78	皆川雅樹	「質より量での思考」から始めよう―思考が対話を促し、対話が個の思考を深める―	社会科教育 2016 年 5 月号	2016 年	pp.88-91	
79	皆川雅樹	高校日本史の授業のつくり方―アクティブラーナーの育成を意識した授業デザイン―	歴史と地理 日本史の研究 254 号	2016 年	pp.17-23	
80	皆川雅樹	量的な情報を質的に KP 法で整理し、思考を加えて質も量も伴う文章に―高度経済成長の「ひずみ」について考える―	社会科教育 2017 年 7 月号	2017 年	pp.86-89	
81	皆川雅樹	古代の東アジア関係史をどう「教える」か	じっきょう資料 地歴・公民資料 85 号	2017 年	pp.10-14	
82	皆川雅樹	「買新羅物解」と天平勝宝四年来朝の新羅使についての再検討	専修史学第 63 号	2017 年	pp.1-25	○

（様式 2）

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

	No.	著者名	論文標題	雑誌名（巻）	発行年	頁	査読
	83	伊集院葉子・義江明子・ジョーン･R・ピジョー	日本令にみるジェンダー：その(3)後宮職員令・下	専修史学第 57 号	2014 年	pp. 1-85	
	84	伊集院葉子	古代の女官について	歴史と地理 日本史の研究 249 号	2015 年	pp. 17-21	
	85	伊集院葉子	日本古代の女帝と女官	歴史評論 787 号	2015 年	pp. 6-16	○
	86	伊集院葉子・義江明子・ジョーン･R・ピジョー	日本令にみるジェンダー：その(4)Comprehensive Glossary	専修史学第 59 号	2015 年	pp. 1-23	
	87	伊集院葉子	「女帝」から古代の日本を考える	歴史地理教育 848 号	2016 年	pp. 4-11	
	88	伊集院葉子	八世紀の五位直叙と女竪	専修史学第 62 号	2016 年	pp33-52	
	89	伊集院葉子	関口裕子著『日本古代女性史の研究』によせて	経済 276 号	2018 年	pp. 82-83	
	90	伊集院葉子	古代東アジア女官研究の可能性	専修史学第 66 号	2019 年	pp. 1-22	○
	91	多田麻希子	秦漢時代の簡牘にみえる家族関連簿集成稿（その二）	専修史学第 56 号	2014 年	pp. 22-53	○
	92	多田麻希子	中国古代家族史研究の現状と新たな課題	歴史評論 785 号	2015 年	pp. 5-18	○
	93	多田麻希子	「秦漢時代の簡牘にみえる家族関連簿集成稿（その三）」	専修史学第 64 号	2018 年	pp. 32-89	○
	94	多田麻希子	「秦漢時代の家族と国家」	博士（歴史学） 学位取得論文	2018 年	pp. 1 -370	○
	95	多田麻希子	「秦漢時代の簡牘にみえる家族関連簿集成稿（その四）」	専修史学第 65 号	2018 年	pp. 1 -67	○
*21 *30	96	多田麻希子	平成 29 年度群馬県金井遺跡郡関係資料調査報告	専修大学社会知性開発研究センター古代東ユーラシア研究センター年報第 4 号	2018 年	pp. 185-189	
	97	山田兼一郎	9 世紀の古代王権と禁苑－神泉苑の変遷と史的意義－	専修史学第 58 号	2015 年	pp. 59-101	○
	98	山田兼一郎	「松林倉廩」「松原倉」の再検討－平城京の禁苑とクラについての覚書－	専修史学第 59 号	2015 年	pp. 41-72	○

（様式 2）

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

	No.	著者名	論文標題	雑誌名（巻）	発行年	頁	査読
	99	山田兼一郎	例会報告要旨「禁苑と唐長安城の治安維持－諸門の出入管理に注目して－」	国史学 219 号	2016 年	p. 166	
	100	奈良竜一	「日書」の性格と郷里社会	専修史学第 60 号	2016 年	pp. 5-38	○
*22 *30	101	奈良竜一	平成 29 年度ベトナム調査報告	専修大学社会知性開発研究センター古代東ユーラシア研究センター年報第 4 号	2018 年	pp. 191-207	
	102	鈴木広樹	中期古墳における須恵器埋納の意義について～朝鮮半島南部との比較を通して～	専修史学第 60 号	2016 年	pp. 100-137	
*7 *30	103	張允禎（鈴木広樹訳）	古代ユーラシアの馬文化－モンゴル・中国・韓国を中心に－	専修大学社会知性開発研究センター古代東ユーラシア研究センター年報第 2 号	2016 年	pp. 59-70	
*11 *30	104	多田麻希子・山田兼一郎・奈良竜一・鈴木広樹	平成 27 年度岡山県・兵庫県渡来系関連資料調査報告	専修大学社会知性開発研究センター古代東ユーラシア研究センター年報第 3 号	2017 年	pp. 198-217	

＜図書＞

No.	著者名	図書名	出版社名	発行年	総ページ数（該当ページ）
1	飯尾秀幸 中国出土資料学会（編）	「睡虎地（湖北省）」『地下からの贈り物　新出土資料が語るいにしえの中国』	東方書店	2014 年	368 頁 (pp. 252-257)
2	飯尾秀幸	「国家論」『歴史学が挑んだ課題－継承と展開の 50 年』	大月書店	2017 年	387 頁 (pp. 77-96)
3	高久健二	「東アジアの鉄器文化～朝鮮半島を中心に～」 『弥生のムラに鉄が来た！！～河原口坊中遺跡の鉄斧はどこから来たのか～』	公益財団法人かながわ考古学財団	2017 年	42 頁 (pp. 29-42)
4	高久健二	「埼玉古墳群出土金属製品・馬具の特徴と系譜」 『史跡埼玉古墳群総括報告書Ⅰ』	埼玉県教育委員会	2018 年	332 頁 (pp. 223-246)

（様式 2）

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

No.	著者名	図書名	出版社名	発行年	総ページ数 (該当ページ)
5	高久健二	「古代東アジアにおける埼玉古墳群の位置」 『史跡埼玉古墳群総括報告書Ⅰ』	埼玉県教育委員会	2018 年	332 頁 (pp. 247-266)
6	高久健二	「日本列島における渡来文化と上毛野－古墳時代の対外交流－」 『古墳時代群馬の渡来文化－観音塚古墳の被葬者像を探る－』	高崎市観音塚考古資料館	2018 年	42 頁 (pp. 28-34)
7	荒木敏夫	『日本の女性天皇』(電子書籍版)	小学館	2014 年	260 頁
8	荒木敏夫	『古代日本の勝者と敗者』	吉川弘文館	2014 年	224 頁
9	川上隆志 旅の文化研究所（編）	聖の旅（旅の民俗シリーズ）	現代書館	2017 年	256 頁 (pp. 79-110)
10	土生田純之（編）	『古墳の見方』	ニューサイエンス社	2014 年	275 頁
11	土生田純之(編著)	『積石塚大全』	雄山閣	2017 年	332 頁
12	土生田純之(編著)・ 安城市教育委員会（編）	『三河国、ここにはじまる!』	雄山閣	2017 年	220 頁
13	土生田純之	「日本における古墳構築技術の土木考古学的研究」『水利・土木考古学の現状と課題Ⅱ(原題ハングル版）』	ウリ文化財研究院	2018 年	490 頁 (pp. 383-410)
14	土生田純之	「畿内型石室に認められる石室構築の調整区について」『泉森皎先生喜寿記念論集』	泉森皎先生喜寿記念会	2018 年	372 頁
15	湯浅治久 中島圭一（編）	「東国仏教諸派の展開と十四世紀の位相」『十四世紀の歴史学』	高志書院	2016 年	490 頁 (pp. 83-108)
16	松原朗（編）	『漢詩の流儀 ―その真髄を味わう―』	大修館書店	2014 年	304 頁
17	下定雅弘・松原朗（編）	杜甫全詩訳注（一）	講談社学術文庫	2016 年	905 頁
18	下定雅弘・松原朗（編）	杜甫全詩訳注（二）	講談社学術文庫	2016 年	927 頁
19	下定雅弘・松原朗（編）	杜甫全詩訳注（三）	講談社学術文庫	2016 年	657 頁
20	下定雅弘・松原朗（編）	杜甫全詩訳注（四）	講談社学術文庫	2016 年	1,111 頁

（様式 2）

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

No.	著者名	図書名	出版社名	発行年	総ページ数 (該当ページ)
21	松原朗（編著）	杜甫と祖父杜審言	勉誠出版『杜甫と玄宗皇帝の時代』（アジア遊学）	2018 年	272 頁 (pp. 45-58)
22	土屋昌明 鈴木健郎・根岸徹郎・厳基珠（編）	「梁漱溟の東西文化論とデューイおよびラッセル」『学芸の環流—東-西をめぐる翻訳・映像・思想』	専修大学出版局	2014 年	446 頁 (pp. 41-72)
23	土屋昌明 小山利彦（編）	「洞天思想の東アジアへの流伝と平安時代の漢詩文—『本朝文粋』を中心に—」『王朝文学を彩る軌跡』	武蔵野書院	2014 年	408 頁 (pp. 371-387)
24	土屋昌明 廣瀬玲子（編）	「石について」『人ならぬもの ：鬼・禽獣・石』	法政大学出版局	2015 年	262 頁 (pp. 156-236)
25	土屋昌明・ヴァンサンゴーサール(編)	「第一大洞天王屋山の成立」『道教の聖地と地方神』	東方書店	2016 年	320 頁 (pp. 133-159)
26	土屋昌明 志野好伸（編）	「真人について」『聖と狂 ： 聖人・真人・狂者』	法政大学出版局	2016 年	270 頁 (pp. 146-198)
27	土屋昌明 禅文化研究所（編）	「唐から五代における河北の道教」『『臨済録』研究の現在』	禅文化研究所	2017 年	932 頁 (pp. 361-376)
28	土屋昌明（編著）	「中国映像歴史学の挑戦—胡傑監督『林昭の魂を探して』について」『映像の可能性を探る』	専修大学出版局	2018 年	242 頁 (pp. 103-152)
29	土屋昌明 陳偉強（編）	「李白與司馬承貞的洞天思想」『道教修煉與科儀的文學體驗』	香港浸會大學人文中國學術叢書、鳳凰出版社	2018 年 4 月	689 頁 (pp. 344-357)
30	Miwako Shiga Noboru Karashima (ed.)	“Colonial administration and education policy” A Concise History of South India: Issues and Interpretations	Oxford University Press	2014 年	369 頁 (pp. 273-278)
31	Miwako Shiga Noboru Karashima (ed.)	“Social Movements: The Tamil Renaissance and new identities” A Concise History of South India: Issues and Interpretations	Oxford University Press	2014 年	369 頁 (pp. 289-293)
32	Miwako Shiga Noboru Karashima (ed.)	“The Non-Brahmin movement” A Concise History of South India: Issues and Interpretations	Oxford University Press	2014 年	369 頁 (pp. 302-313)

（様式 2）

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

No.	著者名	図書名	出版社名	発行年	総ページ数 (該当ページ)
33	Miwako Shiga Noboru Karashima (ed.)	"State politics in Tamil Nadu" A Concise History of South India: Issues and Interpretations	Oxford University Press	2014 年	369 頁 (pp. 330-338)
34	志賀美和子 石坂晋哉（編）	「「不可触民」のジレンマ　非バラモン運動における包摂と排除」『インドの社会運動と民主主義―変革を求める人びと』	昭和堂	2015 年	336 頁 (pp. 61-91)
35	志賀美和子 長崎暢子・堀本武功・近藤則夫（編）	「インド社会変動とヒンドゥー・ナショナリズム」『現代インド３深化するデモクラシー』	東京大学出版会	2015 年	337 頁 (pp. 189-213)
36	志賀美和子 大学での歴史教育を考える会（編）	「視点を変え通説を疑うことから始める歴史学―ガンディーは誰にとって「偉人」なのか」『わかる・身につく　歴史学の学び方』	大月書店	2016 年	221 頁 (pp. 20-35)
37	志賀美和子 大学での歴史教育を考える会（編）	「読書ノート作成のすすめ」『わかる・身につく　歴史学の学び方』	大月書店	2016 年	221 頁 (pp. 110-115)
38	志賀美和子 インド文化事典編集委員会（編）	「留保制度」 『インド文化事典』	丸善出版	2018 年	770 頁 (pp. 58-59)
39	志賀美和子 インド文化事典編集委員会（編）	「家族法」 『インド文化事典』	丸善出版	2018 年	770 頁 (pp. 90-91)
40	志賀美和子 インド文化事典編集委員会（編）	「ナショナリズムと宗教」 『インド文化事典』	丸善出版	2018 年	770 頁 (pp. 194-195)
41	志賀美和子 インド文化事典編集委員会（編）	「ヒンドゥー・ナショナリズムの発展」『インド文化事典』	丸善出版	2018 年	770 頁 (pp. 196-197)
42	志賀美和子	『近代インドのエリートと民衆民族主義・共産主義・非バラモン主義の競合』	有志舎	2018 年	368 頁
43	髙島裕之(編)	『有田・今右衛門窯のしごと　窯業聞き取り調査概要報告』	専修大学陶磁文化研究室	2014 年	24 頁
44	髙島裕之 佐々木達夫(編)	「日本における高品質磁器製品の生産と受容の背景」『中近世陶磁器の考古学１』	雄山閣	2015 年	320 頁 (pp. 47-62)

（様式 2）

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

No.	著者名	図書名	出版社名	発行年	総ページ数 (該当ページ)
45	髙島裕之 佐々木達夫(編)	「元様式青花瓷はいつまで生産されたか」『中国青花　元青花の研究』	高志書院	2015 年	310 頁 (pp. 135-146)
46	髙島裕之 佐々木達夫(編)	「日本染付磁器誕生-有田における磁器生産専業の道程-」『中国青花　元青花の研究』	高志書院	2015 年	310 頁 (pp. 261-276)
47	髙島裕之(編)	『有田焼のしごと今右衛門窯・源右衛門窯　窯業聞き取り調査報告書』	専修大学陶磁文化研究室	2016 年	125 頁
48	髙島裕之 専修大学人文科学研究所（編）	「罹災資料としての陶瓷器―古琉球のグスク出土青花罐は何を語るか」『災害　その記録と記憶』	専修大学出版局	2018 年	253 頁 (pp. 167-180)
49	中林隆之 仁藤敦史（編）	「古代王権と仏教」 『古代文学と隣接諸学 3 古代王権の史実と虚構』	竹林舎	2019 年	560 頁 (pp. 229-251)
50	西澤美穂子 フレデリック・クレインス〈編）	「蒸気船の発達と日蘭関係」 『日蘭関係史をよみとく』下巻	臨川書店	2015 年	253 頁 (pp. 81-108)
51	西澤美穂子 友田昌宏（編）	「アヘン戦争とオランダ出島商館長ビック」 『幕末維新期における日本と世界』	吉川弘文館	2019 年	252 頁 (pp. 26-53)
52	三宅俊彦 白石典之（編）	「出土銭からみたモンゴル社会」 『チンギス・カンとその時代』	勉誠出版	2015 年	374 頁 (pp. 86-102、218-233)
53	三宅俊彦（編著）	『コタン浜出土銭』	淑徳大学人文学部歴史学科調査研究報告第 1 集	2016 年	117 頁
54	皆川雅樹	『日本古代王権と唐物交易』	吉川弘文館	2014 年	276 頁
55	皆川雅樹 樋口州男・村岡薫・戸川点・野口華世・田中暁龍（編）	「『竹取物語』の歴史性―五人の求婚者と難題の品を中心に―」 『歴史と文学―文学作品はどこまで史料たりうるか―』	小径社	2014 年	256 頁 (pp. 29-36)
56	皆川雅樹 アクティブラーニング実践プロジェクト（編）	「日本史　思考が対話を促し、対話が個の思考を深める」『現場ですぐに使えるアクティブラーニング実践』	産業能率大学出版部	2015 年	374 頁 (pp. 166-169)

（様式 2）

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

No.	著者名	図書名	出版社名	発行年	総ページ数 (該当ページ)
57	皆川雅樹 大阪大学歴史養育研究会・公益財団法人史学会（編）	「大学付属高等学校における汎用的な歴史教育の実践と課題―高大接続・連携をめざして―」『史学会 125 周年リレーシンポジウム 2014 1 教育が開く新しい歴史学』	山川出版社	2015 年	223 頁 (pp. 169-186)
58	河添房江・皆川雅樹（編）	『新装版　唐物と東アジア―舶載品をめぐる文化交流史―』	勉誠出版	2016 年	208 頁
59	川嶋直・皆川雅樹（編）	「はじめに」 「KP 法とアクティブラーニング―活動あって思考・学びもあり―」『アクティブラーニングに導く KP 法実践―教室で活用できる紙芝居プレゼンテーション法―』	みくに出版	2016 年	219 頁
60	皆川雅樹 歴史科学協議会（編）	「平安貴族が憧れた外来の品「唐物」」 『知っておきたい歴史の新常識』	勉誠出版	2017 年	232 頁 (pp. 60-63)
61	皆川雅樹 田中史生（編）	「香薬の来た道・社会」 『古代日本と興亡の東アジア（古代文学と隣接諸学１）』	竹林舎	2017 年	560 頁 (pp. 292-320)
62	皆川雅樹 熊谷市教育委員会（編）	「律令国家の変容と中世の胎動」 『熊谷市史　通史編上巻　原始・古代・中世』	熊谷市	2018 年	765 頁 (pp. 181-192)
63	伊集院葉子	『古代の女性官僚』	吉川弘文館	2014 年	246 頁
64	伊集院葉子・早川紀代・秋山洋子・金子幸子・宋連玉・井上和枝（編）	「女帝・女王・女性権力者の存在形態と国家：趣旨説明」『歴史をひらく：女性史・ジェンダー史からみる東アジア世界』	御茶の水書房	2015 年	252 頁 (pp. 19-20)
65	伊集院葉子	『日本古代女官の研究』	吉川弘文館	2016 年	342 頁
66	伊集院葉子 服藤早苗（編）	「『古今集』の作者名表記と女官・女房」『平安朝の女性と政治文化』	明石書店	2017 年	306 頁 (pp. 33-52)

（様式 2）

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

No.	著者名	図書名	出版社名	発行年	総ページ数 (該当ページ)
67	Ijuin Yoko,Sachiko Kawai,Karl F. Friday (ed.)	Gender and Family in the Archaic and Classical Ages,Handbook of Premodern Japanese History	Routledge	2017 年	402 頁 (pp. 202-215)
68	伊集院葉子・黒田弘子・野村育世・義江明子・関口裕子（著）	「解説」 『日本古代女性史の研究』	塙書房	2018 年	337 頁 (pp. 303-317)
69	伊集院葉子 仁藤敦史（編）	「比売朝臣・姫帝・姫太上天皇―女帝と女官に付された「ヒメ」をめぐって―」 『古代文学と隣接諸学 3 古代王権の史実と虚構』	竹林舎	2019 年	560 頁 (pp. 426-448)
70	伊集院葉子 石月静恵・辻浩和・長島淳子（編）	「古代女官の特質」 『女性労働の日本史―古代から現代まで―』	勉誠出版	2019 年	336 頁 (pp. 84-95)
71	多田麻希子 東洋文庫中国古代地域史研究（編）	「「家罪」および「公室告」「非公室告」に関する一考察」『張家山漢簡『二年律令』の研究』	東洋文庫	2014 年	520 頁 (pp. 331-364)

＜学会発表＞

No.	発表者名	発表題目	学会名	発表年月	開催地
1	高久健二	日韓の楽浪系文物－平壌市楽浪区域一帯の古墳の上限年代を中心に－	第 29 回東アジア古代史・考古学研究会交流会	2018 年	福岡大学
2	川上隆志	現代日本の出版文化と雑誌編集の実践	豪州日本学会	2014 年	シドニー工科大学
3	川上隆志	出版メディアにおける差別表現と表現の自由	豪州日本学会	2015 年	ラ・トローブ大学
4	川上隆志	雑誌編集から学ぶ日本語日本文化の現在	CAJLE2015 年次大会	2015 年	サイモンフレーザー大学
5	川上隆志	出版文化の危機と学生編集雑誌の可能性	BALI　ICJLE　2016	2016 年	バリヌサドゥアコンベンションセンター
6	土生田純之	日本における古墳構築技術の土木考古学的研究	水利・土木考古学の現状と課題	2014 年	昌原コンベンションセンター
7	土生田純之	５世紀後半における東国の渡来人	平成 26 年度第 1 回古代東ユーラシア研究センターシンポジウム	2014 年	専修大学

（様式 2）

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

No.	発表者名	発表題目	学会名	発表年月	開催地
8	土生田純之	古墳文化の転換期	明治大学博物館友の会 第 3 回古代史講演会	2015 年	明治大学 博物館
9	土生田純之	積石塚古墳と渡来人	積石塚・渡来人研究会	2015 年	帝京大文化財 研究所
10	土生田純之	古墳研究の今	長野県文化財保護協会	2016 年	長野県立 図書館
11	松原朗	近代以来日本的杜甫研究	李白国際学術研討会	2015 年	西北大学
12	松原朗	詩聖杜甫 ―その実像を考える―	大東文化大学中国学科 秋季講演会	2016 年	大東文化大学
13	松原朗	「杜甫全詩訳注」の刊行 ― 聞一多「少陵先生年譜会箋」に及ぶ―	日本聞一多学会 2016 大会	2016 年	二松学舎大学
14	松原朗	辺塞詩之出現 ―以梁陳時期的辺塞楽府為中心―	第二回中国文化国際高端論壇	2018 年	西北大学
15	土屋昌明	黄泉国と道教の洞天思想	日本古事記学会	2015 年	専修大学
16	土屋昌明	唐代における道士の巡礼について	日本道教学会	2017 年	國學院大学
17	土屋昌明	日本における道教研究の有効性について	日本宗教学会	2018 年	大谷大学
18	Miwako Shiga	Human Rights Depending on the Goodwill of the Majority? Prohibition of Forcible Conversion Act and Dalit Struggle at the “Public” Space	FINDAS International Workshop 2014: ’Untouchability’ in India and Japan: Labour and Space	2014 年	東京外国語 大学
19	志賀美和子	ヒンドゥー・ナショナリズムとドラヴィダ・ナショナリズムの相克？－タミル・ナードゥ州政治にみる地域主義政党のジレンマ	アジア政経学会	2014 年	京都大学
20	志賀美和子	非バラモン運動からみる現代インドの諸問題―タミル・ナードゥ州を中心に―	龍谷大学現代インド研究センター全体研究集会	2015 年	龍谷大学
21	志賀美和子	「不可触民」は何を目指してきたのか？　タミル・ナードゥ州における政治社会運動の 100 年	龍谷大学現代インド研究センター全体研究集会	2015 年	龍谷大学
22	志賀美和子	タミル・ナードゥ州政治史　ドラヴィダ政党の過去・現在・未来	インド州政治研究会	2015 年	アジア経済 研究所

（様式 2）

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

No.	発表者名	発表題目	学会名	発表年月	開催地
23	志賀美和子	「周縁」からみるインド近現代史 南・非バラモン・不可触民	新しい民衆史研究会	2015 年	法政大学
24	志賀美和子	ガンディーは「マハートマー」か　視点で変わる人物評価	大学での歴史学教育を考える会	2016 年	大月書店
25	Miwako Shiga	Social Justice or Economic Development? Election Strategies of the Dravidian Parties	ISEC International Workshop	2016 年	ISEC, Bengaluru, India
26	志賀美和子	「周縁」から見るインド近代史―包摂と排除を越えて―	新しい民衆史研究会	2017 年	上智大学
27	梶原茜・君塚彩香・田中光・南部彩乃・髙島裕之	大学生がみた有田・今右衛門窯	江戸遺跡研究会 第 145 回特別例会	2014 年	専修大学
28	中島徹也・髙島裕之・柴田圭子・新島奈津子	久米島宇江城城跡・具志川城跡出土の貿易陶瓷	第 35 回日本貿易陶磁研究会(沖縄大会)	2014 年	沖縄県立埋蔵文化財センター
29	髙島裕之	17 世紀日本江戸遺跡出土貿易陶瓷器的諸問題	文化交流與信仰傳播国際学術研討会	2015 年	國立台南藝術大學
30	髙島裕之	オランダ・フローニンゲン博物館所蔵肥前磁器の考古学的研究	日本考古学協会第 83 回総会	2017 年	大正大学
31	髙島裕之・山本文子・Anneli Blom	スウェーデン・イェーテボリ号出土陶瓷器の新知見	日本考古学協会第 84 回総会	2018 年	明治大学
32	中林隆之	コシ・出雲の日本海交流と畿内－ヌナガワヒメ伝承をてがかりに－	新古代史の会 第 1 回例会	2018 年	東京医療保健大学
33	中林隆之	東アジアの中の古代佐渡	人文科学研究所 第 3 回定例研究会	2018 年	専修大学
34	西澤美穂子	伊能忠敬の時代の日本の対外関係	専修大学文学部 50 周年記念企画（環境地理学科）講演会	2016 年	専修大学
35	西澤美穂子	歴史学研究会大会近世史部会後藤敦史報告の批判報告	歴史学研究会近世史部会	2016 年	東京大学
36	西澤美穂子・上山和雄	中山元成史料中のペリー来航関係記録	首都圏形成史研究会	2018 年	横浜開港資料館
37	三宅俊彦	インドネシアの出土銭調査	東南アジアにおける出土銭貨の考古学的研究 2014 年度研究会	2014 年	淑徳大学

（様式 2）

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

No.	発表者名	発表題目	学会名	発表年月	開催地
38	三宅俊彦	東亜出土銭幣的考古研究	日本学者従出土文物研究中国的経済和軍事歴史	2015 年	香港中文大学
39	三宅俊彦	北海道留萌市のコタン浜古銭をめぐる諸問題	中近世のアイヌ文化の再構築をめざした学融合的研究 平成 26 年度研究会議	2015 年	函館工業高等専門学校
40	三宅俊彦	沿海州出土の銭貨について	中近世のアイヌ文化の再構築をめざした学融合的研究 平成 27 年度研究会議	2016 年	函館工業高等専門学校
41	三宅俊彦	東ユーラシアにおける出土銭の研究	2016 年度東洋史研究会大会	2016 年	京都大学
42	三宅俊彦	モンゴル国カラコルム遺跡の出土銭貨に関する調査	基盤研究(B)(16H03512) H29 年度研究会	2017 年	淑徳大学
43	三宅俊彦	東ユーラシアの出土貨幣	前近代ユーラシア西部における貨幣と流通のシステムの構造と展開（Ⅱ）基盤研究（A)シンポジウム	2017 年	下関市立大学
44	三宅俊彦	大銭の諸問題	基盤研究(B)(17H02389) 第 3 回研究会	2018 年	福岡市埋蔵文化財センター
45	三宅俊彦	東南アジアにおける私鋳銭・模鋳銭	基盤研究(B)(16H03512) H30 年度研究会	2018 年	淑徳大学
46	皆川雅樹	大学付属高等学校における汎用的な歴史教育の実践	史学会シンポジウム	2014 年	大阪大学
47	皆川雅樹	アクティブラーニングと歴史教育―高校日本史の授業実践を通じて―	日本大学文理学部人文科学研究所総合研究シンポジウム	2016 年	日本大学
48	皆川雅樹	平安時代における「唐物」の「価値」-流通と消費の様相-	日本貿易陶磁研究集会	2018 年	立教大学
49	皆川雅樹	「国風文化」「唐物」と「文化」―研究史を見つめ直す―	国書の会ミニシンポジウム	2018 年	國學院大學
50	伊集院葉子	臣の女：記紀、万葉の宮人たち	美夫君志会	2014 年	中京大学
51	伊集院葉子	日本令英訳の試み	明治大学国際学術研究会シンポジウム：交響する古代Ⅵ	2016 年	明治大学

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

No.	発表者名	発表題目	学会名	発表年月	開催地
52	伊集院葉子	「ヒメ」号と女帝・女官	前近代女性史研究会	2018 年	早稲田大学
53	伊集院葉子・義江明子	青谷横木遺跡の女子群像板絵、男女人形、勧請板、田植え木簡	「日本列島社会の歴史とジェンダー」第 8 回共同研究会	2018 年	歴史民俗博物館
54	伊集院葉子	古代東アジア女官研究の可能性	『専修史学』発行 50 周年記念講演会	2018 年	専修大学
55	伊集院葉子・黒田弘子・野村育世・義江明子	関口裕子さんの学問と現在	東京女子大学女性学研究所青山なを賞受賞記念公開シンポジウム	2018 年	東京女子大学
56	多田麻希子	女性戸主考－秦・前漢期を中心に－	2014 年度専修大学歴史学会大会報告	2014 年	専修大学
57	山田兼一郎	禁苑と唐長安城の治安維持 －諸門の出入管理に注目して－	國學院大學 国史学会 1 月例会	2016 年	國學院大學
58	奈良竜一	「日書」とその性格をめぐって	歴史学研究会アジア前近代史部会例会	2014 年	歴史学研究会事務所
59	奈良竜一	秦漢簡牘にみえる「日書」をめぐって	専修大学歴史学会	2015 年	専修大学
60	鈴木広樹	古墳時代中期における須恵器埋納の意義について～朝鮮半島南部との比較を通して～	専修史学大会	2015 年	専修大学

＜研究成果の公開状況＞（上記以外）

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等
＜既に実施しているもの＞

１．研究成果公開シンポジウム

【平成 26（2014）年度】

■第１回シンポジウム[*1]

テーマ：「古代東ユーラシア地域と朝鮮・日本」（別紙１左上）

日　時：平成 26（2014）年 11 月 29 日（土）13：00～17：00

場　所：専修大学神田校舎 2 号館 301 号教室

参加者：151 名

内　容：

〈趣旨説明〉

飯尾　秀幸（古代東ユーラシア研究センター代表／専修大学教授）

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

〈講　　演〉

「鮮卑の祖先窟の伝達と突厥の祖先窟の伝承」

片山　章雄（東海大学教授）

「渡来人の東国移配と高麗郡･新羅郡」

荒井　秀規（藤沢市郷土歴史課）

「５世紀後半における東国の渡来人」

土生田　純之（古代東ユーラシア研究センター研究員／専修大学教授）

〈討　　論〉

【平成 27（2015）年度】

■第１回シンポジウム[*6]

テーマ：「古代東ユーラシアにおける『人流』」（別紙１右上）

日　時：平成 27（2015）年 7 月 18 日（土）13：00～18：00

場　所：専修大学神田校舎 2 号館 302 号教室

参加者：214 名

内　容：

〈趣旨説明〉

飯尾　秀幸（古代東ユーラシア研究センター代表／専修大学教授）

〈講　　演〉

「ユーラシアの民族移動と唐の成立－近年のソグド関係新史料を踏まえて－」

石見　清裕（早稲田大学教授）

「日本列島への馬の導入と馬匹生産の展開－東日本を中心に－」

堀　　哲郎（宮城県栗原市教育委員会）

「古代東ユーラシアの馬文化－モンゴル・中国・韓国を中心に－」

張　　允禎（韓国・慶南大学校教授）

〈討　　論〉

■第２回シンポジウム[*9]

テーマ：「古代東ユーラシアにおける中心と周縁」（別紙１左下）

日　時：平成 27（2015）年 11 月 7 日（土）13：00～17：00

場　所：専修大学神田校舎 2 号館 302 号教室

参加者：195 名

内　容：

〈趣旨説明〉

飯尾　秀幸（古代東ユーラシア研究センター代表／専修大学教授）

〈講　　演〉

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

「東アジア古代における『中華』と『周縁』についての試論」
川本　芳昭（九州大学教授）

「国際交易と列島の北・南」
田中　史生（関東学院大学教授）

〈討　　論〉

【平成 28（2016）年度】

■第１回シンポジウム[*13]

テーマ：「古代東ユーラシアにおける『人流』と地域社会」（別紙１右下）

日　時：平成 28（2016）年 7 月 16 日（土）13：00～18：30

場　所：専修大学神田校舎 2 号館 302 号教室

参加者：204 名

内　容：

〈趣旨説明〉
飯尾　秀幸（古代東ユーラシア研究センター代表／専修大学教授）

〈講　　演〉
「新出墓誌とその重要性―大唐西市博物館所蔵墓誌を中心に―」
胡　　戟（中国・元陝西師範大学教授）

「唐における高句麗・新羅・百済人の活動とそれに関する史料」
拝　　根興（中国・陝西師範大学教授）

「新出墓誌から見る入唐西域人の活動」
栄　　新江（中国・北京大学教授）

「古代東アジアにおける政治的流動性と人流」
河内　春人（明治大学・中央大学・立教大学非常勤講師）

〈討　　論〉

■第２回シンポジウム[*15]

テーマ：「東ユーラシアにおける移動と定着」（別紙２左上）

日　時：平成 28（2016）年 11 月 19 日（土）13：00～17：30

場　所：専修大学神田校舎 2 号館 301 号教室

参加者：157 名

内　容：

〈趣旨説明〉
飯尾　秀幸（古代東ユーラシア研究センター代表／専修大学教授）

〈講　　演〉
「日本古代のエミシ移配政策とその展開」
武廣　亮平（日本大学教授）

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

「中世国際貿易都市『博多』の調査成果」
田上 勇一郎（福岡市経済観光文化局文化財部埋蔵文化財課）

「中世初期日本国周縁部における交流の諸相」
柳原　敏昭（東北大学教授）

〈討　　論〉

【平成 29（2017）年度】

■第１回シンポジウム[*17]

テーマ：「古墳時代の渡来人－西と東－」（別紙２右上）

日　時：平成 29（2017）年 7 月 15 日（土）　13：00～17：30

場　所：専修大学神田校舎 2 号館 302 号教室

参加者：382 名

内　容：

〈趣旨説明〉
飯尾　秀幸（古代東ユーラシア研究センター代表／専修大学教授）

〈講　　演〉
「日韓交流と渡来人－古墳時代前期以前－」
武末　純一（福岡大学教授）

「古墳時代の渡来人－西日本－」
亀田　修一（岡山理科大学教授）

「古墳時代の渡来人－東日本－」
土生田　純之（古代東ユーラシア研究センター研究員／専修大学教授）

〈討　　論〉

■第２回シンポジウム[*19]

テーマ：「ベトナム・日本の交流よりみた前近代東ユーラシア」（別紙２左下）

日　時：平成 29（2017）年 11 月 18 日（土）　13：00～17：30

場　所：専修大学神田校舎 2 号館 302 号教室

参加者：76 名

内　容：

〈趣旨説明〉
飯尾　秀幸（古代東ユーラシア研究センター代表／専修大学教授）

〈講　　演〉
「ベトナムにおける日本前近代史研究」
ファム・ホン・フン（ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学講師）

「ベトナムにおいて発掘された 17 世紀の肥前焼き物」

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

ダン・ホン・ソン（ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学講師）

「象を通じてみた越日交流」
ファン・ハイ・リン（ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学准教授）

〈討　　論〉

【平成 30（2018）年度】

■第１回シンポジウム[*23]

テーマ：「古代東ユーラシアの国際関係と人流」（別紙２右下）

日　時：平成 30（2018）年 7 月 14 日（土）　13：00～17：30

場　所：専修大学神田校舎 2 号館 302 号教室

参加者：239 名

内　容：

〈趣旨説明〉

飯尾　秀幸（古代東ユーラシア研究センター代表／専修大学教授）

〈講　　演〉

「内乱と移動の世紀－4～5 世紀中国における漢族の移動と中央アジアー」

關尾　史郎（新潟大学フェロー）

「ソグド人の交易活動と香木の流通－法隆寺伝来の香木を手がかりとしてー」

荒川　正晴（大阪大学教授）

「古代東アジアの文物交流－馬韓と百済を中心にー」
成　　正鏞（韓国・忠北大学校教授）

〈討　　論〉

■第２回シンポジウム[*25]

テーマ：「東ユーラシア地域論の現在－交流・交易からみた北と南－」（別紙３左上）

日　時：平成 30（2018）年 11 月 17 日（土）　10：30～17：30

場　所：専修大学神田校舎 2 号館 302 号教室

参加者：175 名

内　容：

〈趣旨説明〉

飯尾　秀幸（古代東ユーラシア研究センター代表／専修大学教授）

〈講　　演〉

「後漢・三国政権と交州地域社会」

新津　健一郎（東京大学大学院博士課程・日本学術振興会特別研究員 DC）

「大越国陳朝期の交易と海域アジア」

菊池　百里子（人間文化研究機構総合情報発信センター研究員）

「9～11・12 世紀における北方世界の交流」
蓑島　栄紀（北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授）

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

「平家政権の日中間交渉の実態について」
髙橋　昌明（神戸大学名誉教授）

〈討論・総括〉

２．刊行物

【平成 26（2014）年度】

■「古代東ユーラシア研究センター年報」第１号[*2*4*30]　平成 27（2015）年 3 月刊行（別紙３右上）

【平成 27（2015）年度】

■「古代東ユーラシア研究センター年報」第２号[*7*30]　平成 28（2016）年 3 月刊行（別紙３左下）

【平成 28（2016）年度】

■「古代東ユーラシア研究センター年報」第３号[*11*30]　平成 29（2017）年 3 月刊行（別紙３右下）

【平成 29（2017）年度】

■「古代東ユーラシア研究センター年報」第４号[*18*21*22*30]　平成 30（2018）年 3 月刊行（別紙４左上）

【平成 30（2018）年度】

■「古代東ユーラシア研究センター年報」第５号[*30]　平成 31（2019）年 3 月刊行（別紙４右上）

３．インターネットでの公開

■古代東ユーラシア研究センターホームページ
センター概要・シンポジウム等イベント情報・出張調査報告を随時更新
URL：http://www.senshu-u.ac.jp/eurasia/

■専修大学学術機関リポジトリサイト SI-Box
刊行した年報を PDF ファイルにて掲載し広く公開
URL：http://ir.acc.senshu-u.ac.jp/

■「古代東アジア世界史年表」（β版）[*27]
日本・中国・朝鮮半島相互の対外関係に関する事項を史資料から集成し、この典拠となった史資料を参照できるよう併せて収録したデータベースを作成し、上記ホームページで公開している。
URL：http://www.senshu-u.ac.jp/~off1024/database.html

■「渡来系遺跡・遺物データベースー東日本編ー」[*29]の公開
URL：https://www.senshu-u.ac.jp/eurasia/database-k-top.html

■「古代東ユーラシア来日外国人データベース」[*28]の公開
URL：https://www.senshu-u.ac.jp/eurasia/database-n-top.html

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

＜これから実施する予定のもの＞

■「中国出土墓誌データベース」[*33]の作成

14 その他の研究成果等

研 究 会

【平成 26（2014）年度】

■第１回研究会[*3]

テーマ：「朝鮮半島からの渡来人と日本列島内に形成された渡来人コミュニティの研究」

日　時：平成 26（2014）年 12 月 16 日（火）12：20～13：00

場　所：専修大学生田校舎 6 号館 社会知性開発研究センター事務課

内　容：

〈講　　演〉

「韓国調査をめぐって－百済地域の墳墓・王宮跡・仏教遺跡」

高久　健二（古代東ユーラシア研究センター研究員／専修大学教授）

■第２回研究会[*5]

テーマ：「ヴェトナム史研究の動向」

日　時：平成 27（2015）年 2 月 23 日（月）13：30～14：30

場　所：専修大学生田校舎 6 号館 社会知性開発研究センター事務課

内　容：

〈講　　演〉

「日本におけるヴェトナム史研究」

山田　兼一郎（古代東ユーラシア研究センター／リサーチ・アシスタント）

【平成 27（2015）年度】

■第１回研究会[*8]

テーマ：「古代東ユーラシアにおける馬具」

日　時：平成 27（2015）年 7 月 16 日（木）16：30～18：00

場　所：専修大学生田校舎 9 号館 ゼミ 95G

内　容：

〈講　　演〉

「中国・内モンゴルにおける馬具の変遷について」

張　　允禎（韓国・慶南大学校教授）

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

■第２回研究会[*10]

テーマ：「岡山渡来人関連遺跡研究の動向」

日　時：平成 28（2016）年 1 月 26 日（火）13：30～14：40

場　所：専修大学生田校舎 6 号館 社会知性開発研究センター事務課

内　容：

〈講　　演〉

「吉備・藩磨における渡来系資料の概要」

鈴木　広樹　（古代東ユーラシア研究センター／リサーチ・アシスタント）

「瀬戸内海沿岸における古代地域史研究の紹介」

山田　兼一郎（古代東ユーラシア研究センター／リサーチ・アシスタント）

■第３回研究会[*12]

テーマ：「吉備・播磨の渡来人（１）」

日　時：平成 28（2016）年 2 月 4 日（木）18：00～20：00

場　所：サントピア岡山総社　会議室

内　容：

〈講　　演〉

「古代の吉備－対外交流を中心に－」

亀田　修一（岡山理科大学教授）

■第４回研究会[*12]

テーマ：「吉備・播磨の渡来人（２）」

日　時：平成 28（2016）年 2 月 5 日（金）17：00～19：30

場　所：姫路キヤッスルグランヴィリオホテル　会議室

内　容：

〈講　　演〉

「古代国家形成期の王権と地域社会」

古市　　晃（神戸大学准教授）

「古代播磨の地域社会構造と倭王権の地域支配－『播磨国風土記』の神話を素材にして－」

坂江　　渉（兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室研究コーディネーター）

【平成 28（2016）年度】

■第１回研究会[*14]

テーマ：「西安西市出土墓誌を巡って」

日　時：平成 28（2016）年 7 月 17 日（日）13：00～16：30

場　所：専修大学神田校舎 7 号館 782 教室

内　容：

〈講　　演〉

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

「西市博物館蔵墓誌の概要」
胡　　載（中国・元陝西師範大学教授）
「西市博物館蔵墓誌の内容」
拝　根興（中国・陝西師範大学教授）
「西市博物館蔵墓誌の活用」
栄　新江（中国・北京大学教授）

■第２回研究会[*16*31]

テーマ：「古代東ユーラシア研究センター研究プロジェクトの意義と展望」
日　時：平成 29（2017）年 1 月 30 日（月）13：00～17：30
場　所：専修大学神田校舎 1 号館ゼミ 52 教室
内　容：
〈講　　演〉
「日本古代史研究と東ユーラシア」
鈴木　靖民（國學院大學名誉教授・横浜市歴史博物館館長）
「東ユーラシアにおける諸族の動向」
窪添　慶文（お茶の水女子大学名誉教授）
「渡来人に関する考古学研究」
亀田　修一（岡山理科大学教授）
「中国湖南省出土の律令関連簡牘の調査」
多田　麻希子（古代東ユーラシア研究センター／ポスト・ドクター）

〈外部（第三者）評価委員会の実施〉

【平成 29（2017）年度】

■第１回研究会[*20]

テーマ：「ベトナムにおける古代史及び日本史研究の概要」
日　時：平成 29（2017）年 11 月 19 日（日）10：00～13：00
場　所：専修大学神田校舎 7 号館 782 教室
内　容：
〈講　　演〉
「ベトナム考古学の成果と課題」
ダン・ホン・ソン（ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学講師）
「ベトナムにおける日本史研究の成果と課題」
ファム・ホン・フン（ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学講師）
「ベトナムにおける越・日交流史研究の概要」
ファン・ハイ・リン（ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学准教授）

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

【平成 30（2018）年度】

■第１回研究会[*24]

テーマ：「日韓における韓国考古学の現状と課題」

日　時：平成 30（2018）年 7 月 15 日（日）10：00　～　13：00

場　所：専修大学神田校舎 7 号館 782 教室

内　容：

〈講　　演〉

「近年の馬韓・百済考古学の成果と課題」

成　正鏞　（韓国・忠北大学校教授）

■第２回研究会[*26*32]

テーマ：「日本古代史・中国古代史・考古学からみた東ユーラシア地域論の現在」

日　時：平成 31（2019）年 2 月 7 日（木）13：00　～ 18：00

場　所：専修大学神田校舎 7 号館 771 教室

内　容：

〈講　　演〉

「日本古代史研究と東ユーラシア地域論」

鈴木　靖民（國學院大學名誉教授・横浜市歴史博物館館長）

「東ユーラシア地域論と東アジア世界史論」

金子　修一（國學院大學教授）

「研究プロジェクトの総括と今後の課題」

飯尾　秀幸（古代東ユーラシア研究センター代表／専修大学教授）

〈外部（第三者）評価委員会の実施〉

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

＜「選定時」に付された留意事項＞

該当なし

＜「選定時」に付された留意事項への対応＞

該当なし

＜「中間評価時」に付された留意事項＞

該当なし

＜「中間評価時」に付された留意事項への対応＞

該当なし

（様式2）

法人番号	131039
プロジェクト番号	S1491004

16

（千円）

年度・区分		支出額	内訳						
			法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他（　　）	備考
平成26年度	施設	0	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	0	
	設備	0	0	0	0	0	0	0	
	研究費	18,607	12,779	5,828	0	0	0	0	
平成27年度	施設	0	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	0	
	設備	0	0	0	0	0	0	0	
	研究費	20,380	14,488	5,892	0	0	0	0	
平成28年度	施設	0	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	0	
	設備	0	0	0	0	0	0	0	
	研究費	19,978	16,870	3,108	0	0	0	0	
平成29年度	施設	0	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	0	
	設備	0	0	0	0	0	0	0	
	研究費	16,917	13,732	3,185	0	0	0	0	
平成30年度	施設	0	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	0	
	設備	0	0	0	0	0	0	0	
	研究費	14,145	10,908	3,237	0	0	0	0	
総額	施設	0	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	0	
	設備	0	0	0	0	0	0	0	
	研究費	90,027	68,777	21,250	0	0	0	0	
総計		90,027	68,777	21,250	0	0	0	0	

（様式2）

法人番号	131039

17

《施　設》（私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。）　（千円）

施設の名称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
社会知性開発研究センター		93㎡	1	25名			
社会知性開発研究センター4		29㎡	1	3名			

※　私学助成による補助事業として行った新増築により、整備前と比較して増加した面積

㎡

《装置・設備》（私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。）　（千円）

装置・設備の名称	整備年度	型　番	台　数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
（研究装置）							
				h			
				h			
				h			
				h			
				h			
（研究設備）							
				h			
				h			
				h			
				h			
				h			
（情報処理関係設備）							
				h			
				h			
				h			
				h			
				h			

18 研究費の支出状況　（千円）

年　度	平成　26　年度			
小科目	支出額	積算内訳		
		主な使途	金額	主な内容
教育研究経費支出				
消耗品費	4,030	コピー代等	4,030	消耗品、コピー、参考資料　他
光熱水費	0		0	
通信運搬費	189	郵送料等	189	資料・年報送付、行事案内
印刷製本費	1,246	印刷費等	1,246	行事案内、年報　他
旅費交通費	2,064	国内・海外出張等	2,064	国内・海外出張旅費 他
賃借料	122	データベース	122	データベース
報酬・委託料	126	委託・謝礼費等	126	シンポジウム講師謝礼、翻訳
準備品費	999	OA機器等	999	パソコン、スキャナー　他
雑費	27	雑費等	27	行事開催時雑費
計	8,803		8,803	
アルバイト関係支出				
人件費支出	879		879	時給：1,100円　年間時間数：約800時間
（兼務職員）	1,569		1,569	実人数：1名
教育研究経費支出	0		0	
計	2,448		2,448	
設備関係支出（1個又は1組の価格が500万円未満のもの）				
教育研究用機器備品	3,489		3,489	
図　書	2,534		2,534	
計	6,023		6,023	
研究スタッフ関係支出				
リサーチ・アシスタント	1,333		1,333	学内1名
ポスト・ドクター	0		0	
研究支援推進経費	0		0	
計	1,333		1,333	

（様式2）

法人番号	131039

年　度	平成　27　年度			
小科目	支出額	積算内訳		
		主な使途	金額	主な内容
教育研究経費支出				
消耗品費	2,018	コピー代等	2,018	消耗品、コピー、参考資料　他
光熱水費	0		0	
通信運搬費	243	郵送料等	243	資料・年報送付、行事案内
印刷製本費	1,411	印刷費等	1,411	行事案内、年報　他
旅費交通費	2,310	国内・海外出張等	2,310	国内・海外出張旅費 他
賃借料	399	データベース	399	データベース
報酬・委託料	434	委託・謝礼費等	434	シンポジウム講師謝礼、テープ起し
準備品費	0		0	
雑費	53	雑費等	53	行事開催時雑費
計	6,868		6,868	
アルバイト関係支出				
人件費支出	2,109		2,109	時給：1,100円　年間時間数：約1,900時間
（兼務職員）	3,035		3,035	実人数：1名
教育研究経費支出	0		0	
計	5,144		5,144	
設備関係支出（1個又は1組の価格が500万円未満のもの）				
教育研究用機器備品	501		501	
図書	534		534	
計	1,035		1,035	
研究スタッフ関係支出				
リサーチ・アシスタント	7,333		7,333	学内4名
ポスト・ドクター	0		0	
研究支援推進経費	0		0	
計	7,333		7,333	

年　度	平成　28　年度			
小科目	支出額	積算内訳		
		主な使途	金額	主な内容
教育研究経費支出				
消耗品費	1,031	コピー代等	1,031	消耗品、コピー、参考資料　他
光熱水費	0		0	
通信運搬費	334	郵送料等	334	資料・年報送付、行事案内
印刷製本費	1,806	印刷費等	1,806	行事案内、年報　他
旅費交通費	2,217	国内・海外出張等	2,217	国内・海外出張旅費 他
賃借料	367	データベース	367	データベース
報酬・委託料	826	委託・謝礼費等	826	シンポジウム講師謝礼、テープ起し
準備品費	198	OA機器等	198	タブレット
雑費	77	雑費等	77	行事開催時雑費、施設入場料
計	6,856		6,856	
アルバイト関係支出				
人件費支出	894		894	時給：1,100円　年間時間数：約800時間
（兼務職員）	3,247		3,247	実人数：1名
教育研究経費支出	0		0	
計	4,141		4,141	
設備関係支出（1個又は1組の価格が500万円未満のもの）				
教育研究用機器備品	0		0	
図書	981		981	
計	981		981	
研究スタッフ関係支出				
リサーチ・アシスタント	6,000		6,000	学内3名
ポスト・ドクター	2,000		2,000	学内1名
研究支援推進経費			0	
計	8,000		8,000	

（様式2）

法人番号	131039

年　度	平成　29　年度			
小科目	支出額	積算内訳		
		主な使途	金額	主な内容
教育研究経費支出				
消耗品費	746	コピー代等	746	消耗品、コピー、参考資料　他
光熱水費	0		0	
通信運搬費	385	郵送料等	385	資料・年報送付、行事案内
印刷製本費	1,397	印刷費等	1,397	行事案内、年報　他
旅費交通費	2,847	国内・海外出張等	2,847	国内・海外出張旅費 他
賃借料	367	データベース	367	データベース
報酬・委託料	342	委託・謝礼費等	342	シンポジウム講師謝礼、テープ起し
準備品費	0		0	
雑費	64	雑費等	64	行事開催時雑費
計	6,148		6,148	
アルバイト関係支出				
人件費支出	1,561		1,561	時給：1,100円　年間時間数：約1,400時間
（兼務職員）	2,797		2,797	実人数：1名
教育研究経費支出	0		0	
計	4,358		4,358	
設備関係支出（1個又は1組の価格が500万円未満のもの）				
教育研究用機器備品	0		0	
図書	411		411	
計	411		411	
研究スタッフ関係支出				
リサーチ・アシスタント	4,000		4,000	学内2名
ポスト・ドクター	2,000		2,000	学内1名
研究支援推進経費	0		0	
計	6,000		6,000	

年　度	平成　30　年度			
小科目	支出額	積算内訳		
		主な使途	金額	主な内容
教育研究経費支出				
消耗品費	1,726	コピー代等	1,726	消耗品、コピー、参考資料　他
光熱水費	0		0	
通信運搬費	409	郵送料等	409	資料・年報送付、行事案内
印刷製本費	1,407	印刷費等	1,407	行事案内、年報　他
旅費交通費	994	国内・海外出張等	994	国内・海外出張旅費 他
賃借料	367	データベース	367	データベース
報酬・委託料	355	委託・謝礼費等	355	シンポジウム講師謝礼、テープ起し
準備品費	0		0	
雑費	55	雑費等	55	行事開催時雑費
計	5,313		5,313	
アルバイト関係支出				
人件費支出	779		779	時給：1,100円　年間時間数：約700時間
（兼務職員）	2,471		2,471	実人数：1名
教育研究経費支出	0		0	
計	3,250		3,250	
設備関係支出（1個又は1組の価格が500万円未満のもの）				
教育研究用機器備品	0		0	
図書	82		82	
計	82		82	
研究スタッフ関係支出				
リサーチ・アシスタント	1,500		1,500	学内1名
ポスト・ドクター	4,000		4,000	学内2名
研究支援推進経費			0	
計	5,500		5,500	

【別紙 1】

＜平成 26 年度 11 月 29 日シンポジウム＞

＜平成 27 年度 7 月 18 日シンポジウム＞

＜平成 27 年度 11 月 7 日シンポジウム＞

＜平成 28 年度 7 月 16 日シンポジウム＞

【別紙 2】

＜平成 28 年度 11 月 19 日シンポジウム＞

＜平成 29 年度 7 月 15 日シンポジウム＞

＜平成 29 年度 11 月 18 日シンポジウム＞

＜平成 30 年度 7 月 14 日シンポジウム＞

＜平成 30 年度 11 月 17 日シンポジウム＞

＜古代東ユーラシア研究センター年報１号＞

＜古代東ユーラシア研究センター年報２号＞

＜古代東ユーラシア研究センター年報３号＞

＜古代東ユーラシア研究センター年報4 号＞

専修大学社会知性開発研究センター

古代東ユーラシア研究センター年報

第 4 号　2015年3月

専修大学社会知性開発研究センター

＜古代東ユーラシア研究センター年報5 号＞

専修大学社会知性開発研究センター

古代東ユーラシア研究センター年報

第 5 号　2016年3月

専修大学社会知性開発研究センター